リスクテイキング尺度の作成と信頼性・妥当性の検討

森泉　慎吾

本研究の目的は、個人のリスクテイキング傾向を把握できる、信頼性・妥当性のあるリスクテイキング行動尺度を作成することであった。

尺度作成にあたり、交通場面や金銭場面など、日常多くの人にとって共通のリスクテイキング行動に関する質問項目を、先行研究を参考に計 60 項目作成した(リスクテイキング行動尺度Ⅰ)。

この尺度の信頼性・妥当性検討のため、大学生 198 名を対象に質問紙調査を行った(調査 1)。因子分析・信頼性検討を行ったところ、ギャンブルに関する「賭博志向性」、安全や防犯などに関する「安全志向性」、その時々の状況で変容する行動に関する「状況的リスク志向性」、状況によらず個人内で一貫性を持つ行動に関する「確信的リスク志向性」の信頼性の高い 4 因子が抽出された。これら 4 因子の妥当性を検討するために、性差、年齢、喫煙習慣、ギャンブル習慣別に、尺度得点を比較した。その結果、男性、喫煙者、ギャンブルを頻繁にする人の「賭博志向性」因子の得点が高くなり、先行研究と一致する結果を得た。よって、この因子に関しては妥当性が示された。しかし、他の因子は先行研究と一致した結果が得られず、このことが因子の妥当性を棄却するのか、リスクテイキング行動に関する新たな知見を提示するのか、再検討が必要であった。

そこで、調査 1 で得られた 4 因子で構成されるリスクテイキング尺度Ⅱ(29 項目)と実行動との関連を検討するために、一般ドライバー40 名を対象に教習所内のコースを走行させる課題を実施した(調査 2)。その結果、「違反歴」、「運転の荒さ」、「指導員評価と自己評価の乖離度」という 3 指標において、全ての因子と関連が見られた。このことから、尺度の妥当性が一部示唆された。調査 1、2 の結果を受け、信頼性、妥当性の低かった因子を再検討し、新たに質問項目を追加したリスクテイキング行動尺度Ⅲ(40 項目)を作成した。

尺度Ⅲの信頼性・妥当性の再検討を行うため、様々な年齢、職種の回答者 374 名を対象に質問紙調査を実施した(調査 3)。その結果、調査 1 よりも信頼性の高い「賭博志向性」、「状況的リスク志向性」、「確信的リスク志向性」、「安全志向性」因子が抽出された。そこで、この 4 因子の妥当性を検討するために、調査 1 と同様の手順で検討を行った。その結果、「賭博志向性」因子は性差、喫煙習慣、ギャンブル習慣において調査 1 と同様の結果が得られた。残りの 3 因子は年齢差以外で先行研究と一致する結果は見られなかったものの、男性よりも女性のリスクテイキング傾向が高くなる状況があること、喫煙行動や、ギャンブルを頻繁に行うことは他のリスクテイキング行動に影響しないという新たな知見を示唆した。

よって、この結果が因子の妥当性を棄却するものではないと判断し、これら 4 因子で構成されるリスクテイキング行動尺度Ⅳ(20 項目)を作成した。さらに、この尺度得点と実行動との関連を実験的に検討するために、大学生 30 名を対象に Lejuez et al. (2002)が作成したコンピュータ課題を実施した(調査 4)。その結果、特に「確信的リスク志向性」因子が、複数のリスクテイキング行動を予測できることが示唆された。また、小塩(2001)が作成した RTBS-U の得点と、全ての因子において関連が見られ、基準関連妥当性が示された。

本研究を通して作成したリスクテイキング行動尺度Ⅳは、実行動を予測可能な尺度として、現実場面への還元可能性を含むものであった。